

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 31日

事業所名 ひだまりのおうち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		配置換えをした(定期的な変更)	更なる断捨離が必要
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		十分とは言えないが、毎日利用児の状態に合わせて過ごしやすい空間を作っている	今後も継続して、利用児に合わせた空間づくりを行っていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			バギーサイズが大きく多く、手狭になる事もある。その都度利用児に合わせた空間の確保に努める
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	スタッフ同士意見しやすい環境つくり	今以上にスタッフが意見をしやすい環境を作る
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		スタッフへの周知
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	FacebookやHPを活用	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	運営会議を活用している	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		研修を掲示、あるいはSNSを使用し、全スタッフが周知できるようにしている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		職種関わらず、スタッフ全員の意見を聞く時間を作る
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		季節に合わせた活動	それぞれの立場から、色々な意見を出していけるようにする
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼を行い、それぞれの部署からの報告を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	終了後は勤務によりバラバラなので、当日の振り返り共有は難しいが次の出勤日に出来ている	SNSでスタッフ全員に周知することも検討
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			検証、振り返りの機会がまだ十分ではない→検証するための情報収集やそれぞれの立場からの意見を出せるようにスタッフもスキルアップを図る。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			突っ込んだ話し合いが必要なことが少しづつ増えてきているので、今後は積極的にしていくことが大事
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7			連絡ノートやSNSの活用・継続。必要な児への情報提供
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	保育園に行き、直接話を聞く(その後は電話等でやりとり)	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			保護者の了解のもと、学校でのやりとりを確認。または学校への送迎時に先生と話をする(継続していく)
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		他事業所との連携を少しづつ増やす。コロナ禍で控えていたこともあり、今後できるよう機会を増やしていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5		感染等に注意しながら、これから少しづつ増やしていくように検討
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		スタッフが誰でも参加できるように地域の行事の情報収集を行う
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)の支援を行っている	5			研修は受けたが、スタッフ全員が対応できていない→定期的な研修や勉強会開催
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4		感染等に注意しながら、開催検討
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	FacebookやHPの日々発信	保護者との連絡等は出来ている(継続)
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	コロナ禍でできず。ご近所の事業所とは少しだがやりとりしている	夏祭り等、地域の方と協力してできると良い
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1		定期的に職員内での話し合いは行われているが、保護者にも周知してもらえるようにする
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		スタッフの理解力がバラバラ→責任をもつて行動できるように、マニュアルの見直しを全スタッフで行う。毎月1日に行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7		看護師に質問しやすい環境である	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		些細な事と思うような事でも書くようしている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		研修での情報を全体会議で報告している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			現在、身体拘束はないが、勉強会を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。